

16. 放射線治療肺癌の²⁰¹Tl SPECT

—腫瘍残存度の評価—

清水 正司 濑戸 光 薮山 昌成
 野口 京 野村 邦紀 亀井 哲也
 二谷 立介 柿下 正雄 (富山医薬大・放)

²⁰¹Tl SPECT を用いて放射線治療肺癌の治療効果判定を行った。放射線治療目的にて当科に入院した肺癌患者 6 名 (M_0 , stage IIIB 以下) に対し, Tl SPECT, 胸部 CT および腫瘍マーカーの測定を治療経過を追って施行した。Tl SPECT では, 病巣部 (L), 健常部 (N) に ROI を設定し, $100(L-N)/N(\%)$ を求めて胸部 CT における腫瘍サイズ(面積)および腫瘍マーカーと比較検討した。6 例中 5 例で Tl の集積と腫瘍マーカーと腫瘍サイズの増減が一致した。また 6 例中 1 例では腫瘍サイズが縮小しないのに, Tl の集積と腫瘍マーカーが減少している症例があり、腫瘍残存度の低下が考えられた。非侵襲的に腫瘍の残存度を定量的に評価する手段として、²⁰¹Tl SPECT は有用であると思われた。

17. ^{99m}Tc-WBC による骨髄イメージング：造血髄評価法としての¹¹¹InCl₃との対比

油野 民雄 横山 邦彦 秀毛 範至
 紺谷 清剛 利波 紀久 久田 欣一
 (金沢大・核)

種々の血液疾患計 11 例を対象として、造血髄評価における^{99m}Tc-WBC イメージングの有用性を、¹¹¹InCl₃ と対比しながら検討した。^{99m}Tc-WBC イメージングは、患者血液中より分離した白血球と^{99m}Tc-HMPAO とを標識して得られた^{99m}Tc-WBC 約 300 MBq を、静注 4 時間後に撮像して得た。¹¹¹InCl₃ イメージングは、74 MBq 静注 48 時間後に撮像して得た。今回 11 例中 10 例では、^{99m}Tc-WBC と¹¹¹InCl₃ は同一骨髄分布を呈し、造血能を的確に反映する結果を示した。また残り 1 例では、^{99m}Tc-WBC と¹¹¹InCl₃ 間で骨髄分布に乖離がみられたが、¹¹¹InCl₃ イメージでは赤血球造成能が反映されたのに対し、^{99m}Tc-WBC イメージでは顆粒球造成能を反映する結果が示された。

18. 慢性腎不全患者の骨シンチグラムにおける体内分布の数値化—処理者の違いによるばらつき—

飯田 昭彦 萩野 浩幸 大見久美子
 南部 一郎 水谷 弘和 大場 覚
 (名古屋市大・放)
 玉木 恒男 原 滋 (成田記念病院・放)
 鶴田 良成 (同・腎内)

長期透析患者の全身骨シンチグラムは、しばしば特徴がある全身分布を呈することが知られている。われわれは慢性腎不全患者の全身骨シンチグラムにおける体内分布の数値化を試み報告してきた。今回はデータ処理過程におけるばらつきを評価するために、5 名の放射線技師および 1 名の医師により同一のデータに対する処理を行い、そのばらつきについて検討した。データ処理過程の中でばらつきの起こり得る部分は ROI を設定する部分と、そのカーブの数字データから各ポイントの数値を拾いあげる部分である。ROI のとり方、数値の拾いだしについて、処理者の間での統一が必要であるが、ばらつきはきわめて少ないと考えられた。

19. ⁶⁷Ga SPECT による肝腫瘍の評価

松成 一朗 大津留 健 一柳 健次
 (福井県立病院・放)

肝細胞癌 14 名 (22 腫瘍)、転移性肝癌 9 名 (17 腫瘍) を対象とし、⁶⁷Ga-SPECT の有用性を検討した。腫瘍部への集積を視覚的に Grade 0 (集積なし) から Grade 3 (高度集積) の 4 段階に評価した。全身像で Grade 1 以上であったのは肝細胞癌 14 例中 7 例 (22 腫瘍中 10 腫瘍)、転移性肝癌 9 例中 2 例 (17 腫瘍中 4 腫瘍) に対し、SPECT では肝細胞癌 14 例中 12 例 (22 腫瘍中 20 腫瘍)、転移性肝癌 9 例中 5 例 (17 腫瘍中 9 腫瘍) と良好な結果が得られた。集積と腫瘍の大きさとの関係では肝細胞癌にて腫瘍の大きさとともに集積の度合も上昇する傾向があったのに対し、転移性肝癌では一定の傾向は認めなかつた。TAE の前後で⁶⁷Ga SPECT を施行した 1 例では、TAE 後における⁶⁷Ga 集積の消失を認め、治療の効果判定での有用性が示唆された。以上のとく、肝腫瘍において⁶⁷Ga SPECT の価値は大きいと結論された。